



# やあ!

1997  
MARCH  
No.48

3

## 市町村文化財紹介 黒磯市

### 寺子のサクラ（天然記念物）

4月上旬から中旬にかけて見事な花を咲かせる寺子のエドヒガン（桜）は別名「アズマヒガン」ともいい、北海道を除く日本各地に分布している。

誰が植えたかは不明であるが、地元の人の話では、墓地に眠る人の冥福を祈るとともに、墓地の目印として植えられたのではないかと言われている。

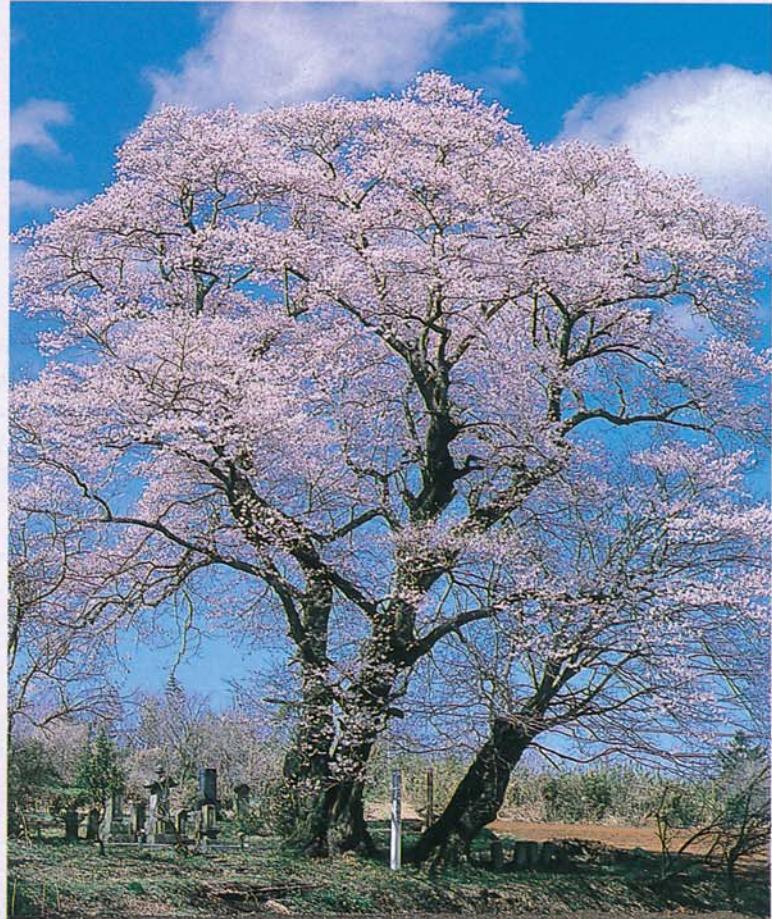
周囲約6.5m、高さ16m、推定樹齢350年。平成元年に「とちぎの名木百選」に選ばれた。

### The Cherry Blossoms of Terako (natural monument)

From the beginning to the middle of the month of April, the "Edohigan" also known as the "Azumahigan" trees of the Terako region in Kuroiso, bloom beautiful cherry blossoms. These trees grow in various areas all over Japan, excluding Hokkaido.

While the person who planted the first "Edohigan" trees is uncertain, the locals of the Terako region say that the trees were probably planted to wish the people who rest in the cemetery happiness in the next world and also to provide a landmark for the cemetery.

The "Edohigan" trees of the Terako region have a circumference of about 6.5 meters around, a height 16 meters high, and are an estimated 350 years in age.



## 青年海外協力隊帰国隊員による派遣国紹介 シリーズ NO. 4

## コートジボワール

よこそ  
とちぎへ

南米移住者子弟短期研修生が来県

トピックス  
TOPICS

JICA筑波国際センター研修視察

- ◆ J E T コーナー 外国語指導助手 マイケル・ハインドさん
- ◆ 国際交流学校訪問 宇都宮市立錦小学校
- ◆ 国際交流団体紹介 国際ソロブチミスト足利
- ◆ こんな店あんな店 ドイツ菓子・料理「シュペーツマン」

TIAホームページ

URL : <http://www.pto.co.jp/tia>

# JETコーナー

外国语指導助手  
マイケル・ハインドさん  
(27歳・カナダ出身)



1997年はマイケル・ハインドの英語指導助手としての3年目であり、最後の年として明記される。元々カナダはオタワのプロの漫画家であり道化師でもあるマイケルは、英語教育と、モントリオールの大学にいた頃から勉強していた漫画と文楽の知識の拡充のため日本にやって来た。

日本は彼にとって感動の経験であった。JETプログラムを通し、彼は沢山の素晴らしい人々と出会い、教えたり教えられたりした。ボランティアでマイケルが過去2年間講師をした「立ち寄り英会話」を通して、日本人の優しさと寛容さ、日本の日常生活の中の日本文化を学ぶことができた。教える事と漫画の手法を通して、マイケルはカナダの豊かな文化と日本の印象を、外国人の友人や日本の人々に伝えることができた。彼の漫画は全国版の雑誌や地方の出版物にも掲載された。彼の演劇の経験は、彼を栃木

県で最初の英語劇団「ワカッタ・プロダクション」の団員となしめ、1996年7月、初公演の三島由紀夫作「道成寺」に出演という運びとなった。

彼は、彼が今愛している国と友人達と別れるのは大きな哀しみだといっている。

マイケルは、モントリオールで漫画家活動を再開するためにここを去る。彼は、隔月発行の漫画を97年10月から描きはじめる予定である。

仏教徒と菜食主義者としての長い修行の結果、マイケルの日本に対する望みは、日本人が豊かな仏教の遺産を再認識し、その教えであるところの寛大なる精神と富、忍耐強さ、無我と非唯物主義の精神を自分たちの生活に活かしていくということである。

彼の別れに際しての願いは、彼が日本で出会い共に時を過ごした人達から受けたのと同じくらい的好印象を、彼らが私に対して持ってくれたら…ということである。

1997 marks Michael Hind's third and final year as an AET in Japan.

Originally a professional cartoonist and clown in Ottawa, Canada, Michael came to Japan to try his hand at teaching English and to further his knowledge of cartooning and bunraku both of which he studied at university in Montreal.

Japan has been an inspiring experience for him. Through the JET programme, he has met,

learned from and taught many incredible people. Through the volunteer conversation group Drop-In English, which Michael has been president of these past 2 years, he has experienced the kindness and generosity of the Japanese people and picked up many details of "everyday" Japanese culture.

Through teaching and the medium of cartooning, Michael has been able to express his own rich Canadian culture and his impressions of Japan to fellow foreigners and to Japanese. His cartoons have appeared in several national magazines as well as local publications. His theatre experience has served him well also as he was involved in the creation of Tochigi's first English language theatre troupe Wakatta Productions and its first play Yukio Mishima's Dojoji in July 1996.

He says it is with great sadness that he leaves his friends and the country he now loves.

Michael is leaving to resume cartooning in Montreal. He will be producing a bi-monthly comic book starting in October of 1997.

A long-practicing Buddhist and vegetarian, Michael's hope for Japan is for its people to reclaim their rich Buddhist heritage and live by its principles of repeat for all living things, of generosity of spirit and wealth, of perseverance, selflessness and anti-materialism.

His parting wish is that he has had as much a positive impact on these he's met and share time with as they have most-assuredly had on him.

## ようこそとちぎへ

welcome to Tochigi

### 南米移住者子弟短期研修生が来県

栃木県から南米に移住した人達の子弟を母県に招聘し、親や祖父母が育った日本の文化・習慣に触れてもらう「南米移住者子弟短期研修生受入事業」が、栃木県とTIAの共催で1月22日～2月10日に行われた。



▲石橋高校で日本文化を体験

研修生は、ブラジル・サンパウロ市の高校から増田由美デニーゼさんと大貫ミシェリさん、ブラジル・トメアスから佐々木優子ケーリさん、ペルー・リマ市から宮城アグス・セルヒオさん、パラグアイ・アスンシオン市から高田昌紀さんの5名。そして、かつて栃木県で技術研修員として美容師の勉強をした宮下クララとしえさん（ブラジル・ペレン市）が団長として来県した。

県内各施設の見学と国際交流団体・UKIIとの交流会の後、一行は石橋高校で体験学習や高校生との交流を行った。また親族の家のホームステイし、日本の文化や習慣について学んだ。その他、日光・東京等の視察やスキー研修も行った。

3週間の研修の感想として、「石橋高校での高校生との交流が楽しかった。新しい



右から宮城、佐々木、副知事、高田、  
宮下団長、増田、大貫の各研修生

友達がたくさんできた。日本とブラジルの学校の違い—例えば制服や学校内で靴を履き替えること—を見つけた」「楽しみにしていたろくろを益子ですることができた。難しかったが、やっと作った自分の益子焼を見て感動した」「雪を見るのもスキーをするのも初めてだったが、一番思い出になった」等が話された。

帰国前夜の送別会では、ホストファミリー親しくなった高校生たちと別れを惜しだ。そして沢山の思い出を胸に帰国した。

# 国際交流 学校訪問

宇都宮市立錦小学校

今年1月、栃木県海外技術研修員と県費留学生が、宇都宮市立錦小学校（小林時久校長・児童数423名）にそれぞれの国を紹介するために招待されたのを機に、同校が行っている国際理解教育の内容について、国際理解教育係の菊地今日子教諭にお話を伺った。

菊地教諭が国際理解教育係になったのは同校に赴任した5年前。それ以前は実質的な国際理解教育プログラムは行われていなかったので、菊地教諭は自分で一から考えなければならなかったという。そこで、宇都宮大学で勉強している韓国からの留学生を招待し母国の話などをしてもらったのを皮切りに、年に2～3回のペースで県内の外国人や国際交流活動をしている人を招い



▲ニュージーランドからのAETが児童と握手

ては、様々な国を全校児童に紹介している。

「まず何をやりたいか大きなテーマを決めて、それからどんな授業内容にするのか詰めていきます。もちろん私一人ではできませんので、各学年の代表の先生と相談しながら資料を作ります。司会、質問、お礼の言葉、花束贈呈など児童がやることも多いので、児童の中から希望者を募って計画段階から入ってもらっています。こうして1時間程度の授業内容が完成し、放課後のゆとりの時間に行います」と話す菊地教諭。様々な国を紹介したいので、国が重複しないように気をつけている。

実際これまでに招待したのは、韓国人留学生、日系ブラジル人、ニュージーランド・イギリス・カナダのAET（英語指導助手）、アフリカ・アジアの海外技術研修員などの外国人の他、仕事の関係でアメリカ・ベネズエラに滞在した日本人や国際交流団体で活躍している人たちである。更に、フォスター・プランでネパールの子どもの里親になっている同校教諭が話し手となった場合もある。先進国・後進国の分け隔てなく、幅広い内容を伝えようとする意図が見える。

校内には国際交流掲示板が設けられており、紹介する国の概要（国旗のいわれ等）を菊地教諭が児童たちと協力して書き、張っておく。それを何気なく見ることによって事前に興味を持ってもらうことが目的なのだ。

このようなプログラムを通して得た実感として菊地教諭は、「子どもたちの心の垣根を取り除き、他の人と手をつないでいかなくてはならないことを知ってもらうた



▲ネパールの宗教画を紹介をする（右が菊地教諭）

めに行っているわけですが、こうした教育は先生や地域の人々がやらなくてはいけないと思います。子どもたちは柔軟性があるので、私たちが心配するよりずっと早く外国の方と親しく接しています。偏見に捕らわれない純粋な気持ちと、知らないことへの興味、好奇心があるんですね。打ち解け合っている姿を見ると、本当にやってよかったです」と語ってくれた。

菊地教諭が少し残念に思っていることに国際理解教育の情報不足がある。「学校間の横の連携があまりありませんので、他の学校で国際理解教育をどのようにやっているのか情報がつかめない状態です。工夫して実践されている方の話などが聞くことができると、今後の活動の参考になるんですが…」とつぶやいた。

錦小学校の「国際理解教育の目標」には①互いの人権を尊重する、②助け合い共に生きていく、③日本の歴史・文化等を理解する、④外国の文化・習慣を理解する、⑤思いやりの心を持って諸外国の人々と仲良く交流・協力する態度の育成という5つの内容が掲げられている。同校の児童たちがこの目標に向かって、さらに一歩進んで行くことを期待したい。

## TOPICS トピックス

### JICA筑波センター研修視察

県内市町村の国際関係担当者や市町国際交流協会職員を対象とした「国際協力事業団（JICA）筑波センター研修視察」が、JICA関東支部、栃木県、TIAの共催で開催され、24名が参加した。



►センター内の農業施設を見学



▲五月女氏が講演援

筑波国際センターはJICAの付属機関の一つ。事業の柱は研修員受入事業で、先端技術分野及び農業分野で人材を育成している。視察一行はセンター内の農業関係の施設を見学した。

JICA研修員用の世界の料理体験の後、午後のプログラムの講演では、外務省経済協力局民間援助支援室長・五月女光弘氏が、日本の海外援助の現状や、戦後諸外国から受けた復興援助等の観点から見た国際貢献の必要性について、また栃木県土木部検査指導課検査班検査監・渡辺勲氏が、JICA派遣専門家としてイエメンで活動したときの体験談などを話した。

### 5名の県内高校生がフランスへ出発

栃木県と友好交流を続けているフランス・ヴォークリューズ県の高校で体験通学とホームステイを行う5名の高校生が決定し、3月11日に出発した（事務局はTIA）。〔団長・古内克矩（宇都宮南高校教頭）、団員・枝野奈穂（佐野女子高校2年）、栗田智水（宇都宮女子高校2年）、関口義雄（宇都宮高校2年）、松下ひかり（栃木女子高校1年）、薬師寺渚（宇都宮大附属高校2年）〕敬称略



▲前列右から枝野、栗田、薬師寺、後列右から古内、関口、松下

# コートジボワール Côte d'Ivoire

西アフリカのギニア湾に面するコートジボワールは、フランス語で「象牙海岸」の意味。かつてこの地方の海岸から大量の象牙が運び出されたことに由来する。

気候は、北部が雨期と乾期があるサバンナ気候、南部は高温多雨の熱帯雨林気候である。主要輸出品のコーヒー、カカオ、木材は南部で産出される。また海底油田から石油も採掘されている。日本はフランスにつぐ第二のODA（政府開発援助）供与国。

## 案内人

大野明子さん (29歳) 鹿沼市立板荷中学校養護教諭



養護学校時代から青年海外協力隊への参加を考えていた大野さんは、中学校教諭になつて3年目に志願し、1994年12月から1996年12月までの2年間、コートジボワールの大都市アビジャンの北西約250kmにあるジキソ村の診療所・助産所で活動する。現職参加。栃木県出身の協力隊員で同国に派遣されたのは、大野さんが初めて。

### 出産の翌日に歩いて退院

私が派遣されたジキソ村の診療所・助産所には、医師も兼ねた看護士1名、助産婦1名、助産婦助手1名、そして私より半年前に着任した協力隊員1名と私の計5人がいました。

基本的な仕事は、一般診療、予防接種、地域巡回による保健医療の普及、衛生状況の改善などです。先輩の隊員がすでに注射器の使い捨てを実施していましたが、ピンセットなどの器具類は不足していました。そこで協力隊活動援助金を利用して、足りない器具類を購入しました。

一般人の衛生観念はかなり低く、またお金がないために病気や出産で診療所に来ることは少ないです。一回の診療費100セファ (20円) や薬代を払えない状況なのです。診療所に来ないもう一つの理由は、車がないので遠い場所に住んでいる人たちは来られないということです。この村では月約30人の赤ちゃんが生まれていますが、その半数は家族や近所の人の協力で自宅で出産されています。助産所を使用するのは結局、近くに住んでいるお金がある程度ある人となってしまいます。

助産所には入院用のベッドがありますが高いため利用することは稀です。出産した



◀ 小学校で絵を用いて衛生教育

翌日には退院し、歩いて自分の家まで帰っていきます。出産のぎりぎりまで働いて産んだらすぐ帰るのですから、コートジボワールの女性は本当にたくましいですよね。

私は助産婦の補助として、赤ちゃんへの緒を切ったり体重測定をするのが通常ですが、助産婦や他にだれもいなくてやむを得ず私が赤ちゃんをとりあげたこともあります。正直とても怖かったです。

一般診療では内科・外科すべてを行っています。こちらでの私の仕事は消毒、注射、縫合などです。日本の看護婦さんと同じです。基本的には所内でしか治療をしませんが、麻疹など流行性のあるものの場合は移動診療を行いました。

治療の例としてこんなことがあります。草刈り鎌で手を切った人が傷口をそのまま放っておいたら腐りかけてしまい、ようやく診療所へ来た。日本だったらすぐ手術だが、治療はただその傷口の膿を絞り出し抗生物質を注射しただけ。これですぐ治って

しまったのには驚きました。抗生物質に慣れていない人が用いると本当に良く効きます。

協力隊活動を通して現地の人が興味を持ってくれたのは、予防接種時に体重測定をして栄養失調状態を確かめることです。母親が自分の子どもの成長に关心を示すよ

うになったということですね。また、近くの小学校の授業で行った衛生教育も好評で、先生たちも積極的に協力してくれました。

### 主食はイモ、バナナ、トウモロコシ

コートジボワールには部族が60もあり、食べ物、風習、言葉が違います。彼らの主食はこの部族や地域によって異なります。



◀ 一般的な料理でアチャケ  
（白い部分、魚揚げバナナ）

一般的に海岸部はアチャケというキヤッサバ (イモ) を加工したもの、都市部は蒸かしたりついたりしたヤムイモやキヤッサバ、都市部と海岸部の間は料理用バナナ (茹でてマッシュポテトのようにしたり油で揚げたりする)、北部はトウモロコシの粉を寒天状にしたものなどです。これらにナス、魚、肉、ピーナッツなどが入ったソースをかけて食べます。ジキソ村の人たちは、ナツメヤシの実をソースにしたものをおんで食べていました。

住まいについては、田舎では土で造った



▲ヤムイモについているところ



◀ 赤ちゃんの体重測定をする大野さん



家が多いです。造り方はこねた土を重ねていくだけ。木で骨組みをしてその中に土を入れる方法もあります。友人などに手伝ってもらい自分で造ります。土台が土なのでろくなっていると雨期の雨風が強いときに倒れることもあります。

この村には電気が引かれていましたが、電気料金が高いため普通の家には電気はありません。だから電化製品もありません。欲しいのはテレビで、もしお金がたまると買います。水道もなく井戸を利用しています。この国は村でも都市でもそうですが、貧富の差が激しく、金持の家には何でも揃っているのが実状です。

私が知っている限りの公務員の給料は、小学校の校長先生が月25万セファ（5万円）、看護士が15万セファ（3万円）です。このくらいの給料ならゆとりのある生活ができます。

次に服装ですが、田舎の女性は派手な柄の何枚かの布を体や髪に巻きます。一方都市部の女性は現地の布で作った洋服を着ることが多いようです。



▲マンの祭りの部族ダンス



►村の市場でアボガドを買う大野さん（中央左）

宗教はキリスト教、イスラム教、部族宗教があります。部族宗教はマスク（仮面）、森の精霊、ある種の魚などを信仰の対象としています。この部族宗教と関係があるのがダンスです。太鼓や木琴の音楽に歌が入り踊ります。とても迫力がありますよ。

コートジボワールの公用語はフランス語ですが、普段は各部族の言葉を話しています。ただ都市部は様々な地方出身者がいるので、やはりフランス語でコミュニケーションをとっています。

### ピカソも影響を受けた絵

観光地では、まず北部のコロゴが挙げられます。ここの名産は「コロゴ・ペイント」

►コロゴ・ペイントを描く老人

という現地の染料を用いて綿で織った布に伝統的な絵を描いたものです。あのピカソもここを訪れ、「コロゴ・ペイント」に影響されたと言われています。独特なモチーフにダイナミズムを感じられる絵です。

また、コロゴ近郊は、テーブルクロスなどの手織り物も盛んに作られています。その他、農機具を作る鍛冶屋が多いのも特徴です。このようにコロゴ一帯は、この国の村の伝統的な生活を見るることができるので、外国人観光客もたくさん訪れます。



西部のマンには山や大きな滝があり、景勝地として有名です。蔓とロープで造った長い吊り橋を渡るのが楽しかったです。

一方海辺では、グランバッサムがリゾート地になっていてきれいなホテルやおみやげ屋が並んでいます。フランス人やイタリア人がバカンス時期にやって来ます。

残念ながら日本人観光客はほとんど来ません。来るのは自動車か電気機器関係の会社員、そして私たち協力隊員くらいですね。

生活内容が弥生時代のような家と、日本と変わらない家があるのが不思議に感じました。これが貧富の差なんです。でもコートジボワールの人々は明るく、おおらかで親しみやすかったです。

### データ

### コートジボワール共和国



- |        |                          |
|--------|--------------------------|
| ① 面積   | 322,463km <sup>2</sup>   |
| ② 人口   | 1,370万人（94年）             |
| ③ 首都   | ヤムスクロ                    |
| ④ 主要言語 | フランス語                    |
| ⑤ 宗教   | 部族宗教、イスラム教、キリスト教         |
| ⑥ 建国   | 1960年にフランスから独立           |
| ⑦ 通貨   | CFAフラン                   |
| ⑧ 元首   | 大統領                      |
| ⑨ その他  | 協力隊員の派遣人数86人<br>栃木県からは1人 |

#### 〔国旗の意味〕

オレンジは国民の明朗さと北部地方の肥沃な土地、白は清純さ、緑は希望と南部地方の豊かな原生林を表している。

綿で糸を紡ぐ老女（コロゴ周辺）

## 国際ソロプチミスト足利

1983年1月22日に、職業を持つ女性の奉仕団体として足利市、佐野市、田沼町、葛生町、藤岡町、岩舟町（S.I.栃木と共有）の地域の人達で組織されました。今年で14年目を迎え、会員は現在33名です。「理解、促進、提唱」のもと、地域に根ざした地道な奉仕活動を行っています。

一例として、高校生への奨学金の支給、環境面では植樹を行ってきました「ソロプチミスト通り」、老人ホームへの慰問等ですが、国際交流につきましては、6つの奉仕委員会のうち「国際親善と理解活動（I.G.U.）委員会」があり、そのI.G.U.委員会が中心となり活動しています。なかでもアメリカのロンデールクラブとはフレンドシップリンクスを結んでおり、スプリングフィールド市の駅伝選手が足利に来たときやランカスター市の中学生受入れの際に、お茶・お花の体验、和服の試着等を行

い、大いに盛り上がりとても楽しい一時を過ごしました。

また、昨年8月のランカスター市ストーク市長の佐野市来訪の折には、例年行っていますアメリカハナミズキの植樹と共に行うことができましたことは、大変意義深いものと考えております。

日本東リジョンの環境シンポジウムのテーマである「大気」については、地域の小学生より募集しました標語「ノーカーデー、今日も地球は深呼吸」が最優秀クラブ賞となり、トルコのイスタンブールで行われました「ハビタットII（世界居住会議）」において、記念に作ったTシャツと共に展示参加となりました。

これからも私達クラブは「あ、うん」の呼吸で、手づくりの活動を通して、より楽しい人の輪を広げていくよう努力していきたいと思います。（文：田中和美 0283-24-2575）



▲ランカスター市長と共に植樹したときの記念撮影

## こんな店 あんな店

### ドイツ菓子・料理 シュペーツマン

ドイツのお菓子、ソーセージ等の肉製品の他、ドイツ料理も提供する「シュペーツマン」の名の由来は、ケルン北方70kmのイザロンという町にある、オーナーの江連さん（下写真）が以前働いていたドイツのカフェの名前からとったそうだ。

江連さんは、このカフェに勤める前にドイツの製菓学校の洋菓子コースで2か月勉強した。その間ホテルに滞在していたが、ロビーで知り合ったドイツ人達からドイツ語を教えてもらいい、めきめき上達



したという。菓子学校でのハードな勉強による知識の向上、ドイツ語の上達、また洋菓子組合会長の推薦などの幸運にも恵まれ、「シュペーツマン」というカフェ（ドイツの場合は、ホテル&レストランの様式のもの）に就職が決まる。仕事内容は洗い物などではなく、他のドイツ人スタッフと同じ内容で、特にクリーム塗りについてはお墨付きの評価をいただいたそうだ。この店で結局2年間働き、沢山のことを学んだ。

ドイツでの修行の後帰国した江連さんは、自分の店を出す決心をする。こうして宇都宮市に造られた「シュペーツマン」は、今年で15年目を迎える。

この店ご自慢のおすすめ品は、シュトーレン（¥3,800、ハーフは¥2,000）とよばれるドイツのクリスマス用の焼き菓子。日本ではクリスマスを問わず、注文があれば全国どこにでも宅配便を利用して届けている。他には、特殊機械でエアーを注入して作った30%の低脂肪の生クリームを使ったお菓子、リンゴの焼き菓子や苺のタルトもおすすめである。3月はホワイトデーのお菓子を求めるお客様が増えるそうだ。

一方2階部分はドイツ料理が楽しめるス

## 知ってて得する なんでもQ&A

### [海外留学について パートIV]

今回はビザ申請についてです。

ビザ（査証）とは、渡航先の国の在外公館（在日の大使館又は領事館）が、あなたがその国に滞在することを認めた場合に発行する書類です。

海外の学校に長期在籍するときは、学生ビザが必要になります。ビザ申請に必要な書類、ビザの申請・受給方法は、留学する国によってそれぞれ違います。また、ビザの申請から受給までの日数についても国によって違いますので、余裕を持って手続きしてください。

自分が留学する国のビザ申請について詳しく知りたい方は、直接在日大使館又は領事館へ問い合わせてください。

海外留学についての説明は、今回で最後となります。



たくさんのお客さんが並べられた店内

ベースとなっており、ランチメニューではソーセージセット（パン、サラダ、コーヒー、デザート付）が各1,000円で食べられ、焼き方もボイル、焼き、チーズ焼き、オムレツの4種類から選べる。

また、ディナーでは、「シュニッツェル」という牛肉のカツレツ（2,000円）を赤ピーマンやパプリカの入ったチュゴイナーソースで食べるものや、スイス料理で日本でよく知られているチーズフォンデュ（1,800円）も楽しめる。もちろん、コースメニュー（3,500円と5,000円の2種類）もある。

▶ 営業時間=10:00~21:00 ランチ12:00~14:00 ディナー16:00~21:00 ▶ 水曜定休 ▶ 住所=宇都宮市江曽島2-17 ▶ 電話=028-645-4106

# 情報発信 地域の国際交流案内

## ★高校生エッセイコンテスト'97

国際協力事業団（JICA）は高校生を対象に、日本と開発途上国との関係、国際社会の中で日本の果たすべき役割、また自分たちにできる国際協力について考えてもらうことを通して将来の国際協力に対する理解者・参加者を育成することを目的とした「高校生エッセイコンテスト'97」を実施する。▶募集テーマ=「開発途上国、国際協力について考えていること」、題は自由。▶募集規定=①本文：400字詰め原稿用紙（A4サイズ）4枚以内、②別添：400字詰め原稿用紙（A4サイズ）1枚に、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、電話番号、年齢、性別、学校名、学年、海外渡航経験の有無、どのようにしてこのコンテストを知ったかを、新聞・雑誌を通して知った場合には媒体名を明記 ▶応募資格=1997年4月現在高校生であること ▶募集期間=5月12日まで ▶賞=特選4名（賞状及び約10日間のモロッコ研修旅行）、準特選4名（賞状及び約1週間のフィリピン研修旅行）、審査員特別賞6名（賞状及び2泊3日の沖縄研修旅行）、他各賞 ▶応募先・連絡先=国際協力事業団関東支部〒336埼玉県浦和市北浦和4-5-5 北浦和大栄ビル7階☎048-834-7770

## ★日韓合同劇映画「愛の黙示録」を上映しませんか

平成8年度「児童福祉文化賞（厚生大臣賞）」を受賞した日韓合同劇映画「愛の黙示録」は、戦中から戦後にかけて韓国・木浦で孤児3千人を育てた日本人・尹鶴子

（日本名・田中千鶴子）さんの生涯を描いている（主演：石田えり）。

映画「愛の黙示録」を世界におくる会は、各地域で上映して多くの人々に観てもらうために、フィルムの有料貸出しを行っている。上映方法は「地域上映」、「サークル上映」、「学校上映」があり、それぞれフィルム借入料が異なる。

詳しい内容・資料については、映画「愛の黙示録」を世界におくる会（〒544大阪市生野区中川2-4-26故郷の家デイサービスセンター内☎06-753-6595）まで。

## ★ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミー留学生オーディション

クラシック・バレエの最高峰といわれる「ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミー」公認の留学生オーディションが、昨年に引き続き今年も開催される。▶実施日=平成9年7月12日（土）・13日（日）▶実施会場=栃木県総合文化センター・リハーサル室 ▶留学生受入予定人員=10名以内 ▶留学期間=1997年9月1日～1998年6月30日（10か月間）▶審査員=同アカデミー主任教授タチアナ・ウダレンコヴァ氏他 ▶審査内容=バーレッスン、センターレッスン等の実技及び身体測定 ▶審査結果=7月13日発表 ▶参加資格=1977年1月1日～1980年12月31日に生まれた方（国籍は問わない）▶参加料=10,000円 ▶参加方法=参加申込書に必要事項を記入し、健康診断書と参加料を同封し現金書留にて申し込む ▶申込受付期間=1997年5月1日～5月30日（必着）▶その他=コスチューム、レッスン・シューズ、トゥ・シューズ、タオル等を各自用意 ▶申込先・問い合わせ=栃木県総合文化センター企画事業課「ワガノワ・バレエ・アカデミー留学生オーディション」係〒320栃木県宇都宮市本町1-8☎028-643-1010

## ★インド東北部へ～卒業生を訪ねる旅

アジア学院は、同学院卒業生50人以上が活躍しているインド東北部を訪れるスタディツアーリーを実施する。同地はインドのなかでも教育の機会に恵まれず、依然として焼き畑農業に頼っている。▶期間=1997年11月8日～11月22日 ▶コース=カルカッタ→インパール→コヒマ→ディマプール→ガワティ ▶募集人員=15名 ▶参加費用=30万円程度 ▶締切=5月末 ▶申込み・資料請求=アジア学院☎0287-36-3111

# TIA日誌

1997年1月1日～1997年2月28日

- |      |  |
|------|--|
| 1/9  | JICA筑波国際センター研修視察                               |
| 1/17 | 日仏青少年短期研修事業派遣生徒第2回研修会 (協会研修室)                  |
| 1/20 | 浙江省人民对外友好協会代表団との会談 (自治会館)                      |
| 1/22 | 南米移住者子弟短期研修生受入れ (~2/10)                        |
| 1/23 | 海外移住家族会第2回役員会及び研修会 (自治会館)                      |
| 1/25 | 青年海外協力隊派遣隊員家族懇談会及び帰国隊員報告会 (コンセーレ)              |
| 1/26 | 国連英検第2次試験 (YMCA宇都宮本校)                          |
| 1/31 | 日仏青少年短期研修事業派遣生徒副知事表敬訪問 (副知事室)<br>第3回研修会 (自治会館) |
| 2/6  | 県費留学生・技術研修員・短期研修生スキー研修 (~2/8日光湯元)              |
| 2/15 | 日仏青少年短期研修事業派遣生徒第4回研修会 (協会研修室)                  |
| 2/28 | 日仏青少年短期研修事業派遣生徒第5回研修会 (協会研修室)                  |

夢をかたちに……心に残るウェディング

## ご婚礼予約受付中

### プラザ イン・くろかけ

### ブライダル特別企画

- 1 土曜日・日曜日・祝日に挙式される方
- 2 ウィークデーに挙式される方
- 3 ・仏滅に挙式される方
- ・サマー期間（7月・8月）に挙式される方

- お飲み物 お一人様1,000円で飲み放題 (税・サービス料別)  
お飲み物 オールサービス婚礼衣装50%OFF  
お飲み物 オールサービス婚礼衣装70%OFF

この特別企画の有効期限は、平成9年4月1日から平成10年3月31日までに挙式される方の場合に適用されます。

**PK プラザ イン・くろかけ**

〒320 宇都宮市桜4丁目1番19号 TEL 028-622-1981

## KDDスーパーワールドカード

コンビニエンス  
ストアで販売

国際電話専用プリペイドカード  
Prepaid Card Exclusively  
for International Calls



KDD Japan's Global Communications 3200

8時 19時 23時 24時

深夜割引料金時間帯  
(-25%～-40%)

昼間料金時間帯

夜間・休日  
割引料金時間帯  
(-20%)

# TIA Information Corner

## ★日本語講座 4月開講

TIAは平成9年度第I期日本語講座を4月に開講する。▶対象=在県外国人 ▶場所=TIA3階研修室 ▶受講料=無料(ただしテキスト代は実費) ▶申込み及び問い合わせ=TIA日本語講座係☎028-621-0777

## ★INÍCIO DO CURSO DE JAPONÊS EM ABRIL

A TIA iniciará o 1º. Estágio do Curso de Japonês do Ano 97. Destinados aos estrangeiros residentes nesta província.  
▶Local: 3º.andar da TIA.  
▶Mensalidade: gratuita (apostila por sua conta).  
▶Informações: TIA ☎ 028-621-0777.

## ★EN ABRIL EMPIEZA LA CLASE DE JAPONES

El TIA empieza la Clase del Idioma Japonés (1a.Etapa) del año 1997. Esta clase es para todos los extanajeros que viven en Tochigiken.▶Lugar: 3er.piso de TIA. ▶Mensualidad: Gratuita (libro de texto por su cuenta).  
▶Inscripción e Informaciones: TIA ☎028-621-0777.

## ★JAPANESE LANGUAGE CLASS REGISTRATION, BEGINNING IN APRIL

▶Participants: Prefectural foreign residents.  
▶Location: The third floor of the TIA.  
▶Tuition: Free, however students have to purchase a textbook.▶For more information, call TIA at 028-621-0777.

## ★日本語講座 4月开讲

TIA栃木县国际交流协会  
平成9年第一期日本语讲座  
在4月开讲。  
对象:在县内的外国人  
场所: TIA 3 楼研修室  
讲座费:免费(但是教科书的  
费用各自负担)

报名和询问:TIA日本语讲座  
经办员  
电话:028-621-0777

کلاس زبان ژاپنی در ماه اپریل می‌شود.  
اینجen بین المللی استان توچیگی .  
جلسه اول سال ۱۹۹۷ در ماه آغاز می‌شود.  
شرابط پذیرش: خارجی های مقسم استان .  
عمل کلاس: TIA طبقه سوم - اتاق کنفرانس .  
شهره: محافی است (نمایهای کتاب راید بردازید)  
آگراطلاعات بشربرخواره دهی به TIA قسم زبان  
ژاپنی مراجحة نیست. تلفن ۰۲۸-۵۲۱-۰۷۷۷

## TIAビデオライブラリー

ビデオランゲージ／タンビン村のお母さん



ビデオランゲージとは、世界の国々を良く知り理解するために、ビデオシーンを観ながら一人ひとりが感じ、発見し、気づき、考え、皆で討論する方法である。

この「タンビン村のお母さん」は、ベトナム南部メコンデルタ地帯のタンビン村で稲作農家一家を支える主婦（お母さん）の生活状況を中心に描

かれている。内容は9つのプロットで構成され、「家族と家」、「水と暮らし」、「お母さんの一日」、「子どもの生活」などのタイトルが付いている。それぞれのプロットが2分～5分なので、各プロットを何度も繰り返し観たり、問題のシーンを静止して観ることができる。また、画面中にときどきマークが出てきて何かを見つけるよう用意されている。

ビデオには、ビデオランゲージの進め方や内容の要点が書かれたマニュアルがついていて、学校の授業や国際理解関係の集会の教材として使用する際に指導しやすい。内容的には、小学生が観ても十分理解できるものである。

開発途上国における女性の社会的・経済的役割の一例をビデオは語っているが、開発途上国課題は奥が深く、「何が正解か」は誰にもわからない。しかし観たあと「どんなことを感じたか」を話し合い、問題点について考えることが、将来これらの問題を解決するきっかけとなるだろう。(財团法人大阪国際交流センター制作)

## TIA 贊助会員募集中！

賛助会員になりますと、TIAの機関紙、各種刊行物、催事情報等が受けられます。またテレビ方式変換ビデオ（海外→日本、日本→海外）をご利用できます。その他会員証の提示により、指定店での割引等の特典もあります。年会費は個人3,000円、団体10,000円、法人30,000円。※賛助会費と出捐金の運用益は、TIAの様々な事業に使われており、地域の国際化のために役立っています。

●県費留学生、技術研修員、南米からの短期研修生の総勢22名が日光・湯元でスキー研修を行った。上達具合は千差万別だが、担当者は「アフリカからの技術研修員が上手だった」と報告。中には「何回も他の人がぶつかってきた。ひどい」と泣き言を言う県費留学生もいたそうな。それでも皆「楽しかった」とのこと。やっぱりスキーはいい思い出になるんだなあ。雪がなければできないもんね。  
●南米からの短期研修員の送別会で日本の高校生がカラオケを披露した。ノリまくって歌うその姿に唖然、驚愕。短期研修生も一緒になって歌ったが、どう見ても日本の高校生の勝ち。かなわんわ。

※財團法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人（寄附金の損金算入等の課税特別措置）の認定を受けています。つきましては、当協会の事業にご賛同下さる各企業、団体、ほか皆さまからのご出捐をお願いしております。

